



年長組による聖劇（12月19日 平和のぼら保育園お遊戯会）

「島のひかり」ホームページアドレス

<https://shimanohikari.jimdofree.com/>



発行

カトリック浦頭教会
広報委員会
五島市平蔵町2716
TEL 0959⑦0072
印刷・(株)才津印刷所

踏み出してみる

主任司祭 工藤 秀晃

新年あけましておめでとうございます。こちら浦頭小教区にお世話になって、早くも二度目の新年を迎え、今こうして二〇二一年の一月を過ぎさせていただいております。

振り返れば昨年は、新型コロナウイルスの感染と拡大の影響を受けて、個人だけでなく種々の共同体において、さらには地球規模で、今日までの生き方・あゆみ方の方向転換を余儀なくされ、これまでの営みの中であっては、ごくごく「当たり前」のこととして行ってきたことが、突如一変して当たり前に行うことができなくなった一年でした。そして、それは新たな年を迎えた今もなお続いており、まだまだコロナウイルス感染拡大の終息のめどは立たず、それゆえ言いようのない不安や息苦しさがあったよい続けているように思われます。

しかし、それでも私たちは新しい年を迎えました。それは単なる年の移り変わりではありません。毎年思う思い、そう感じ、そう言うのかもありませんが、それでも良いではありませんか。そうです、希望に満ちた新たな一年を迎えたのです。ただ素直に目を向けるなら、まだ三〇日以上もの真っ白な何も刻まれていない「私の日々」が、それぞれを待っているのです。もちろん、順風満帆で思い通りの日ばかりではないでしょう。いやむしろ、困難や苦

難に満ちていて、おもわず投げ出してしまいたいと思う日々になるかもしれない。でもそれは、前に踏み出してみなければ始まらないことです。立ち尽くしているだけでは、何も分らないことです。踏み出し、歩み出した先に答えがあります。

このような状況下の中、新成人となられた大浦^{オホウラ}緋莉^{ヒリ}さん・鍋内^{ナベウチ}颯太^{ハツタ}さん。心待ちにしていたことが、自粛や中止や延期になってしまふことが何かと多いかと思いますが、それでも、お二人が、大人として、社会人の一員として踏み出して行かれるその道の上に幸多からんことをこころより祈ります。

当初は、一月十七日に高見大司教様から堅信の秘跡を受けて、大人のキリスト信者としてその一歩を踏み出すはずだった六名の中学二年生の皆さん。少しいただけ、その時は先延ばしになってしまいました。でも、その分だけご家族を始め浦頭小教区のお一人おひとりが、皆さんの堅信式に向けてさらなるこころを込めて祈ってくださいます。なので、力強く踏み出すことができるように足慣らしをしといてください。

この紙面に目を通してくださっている皆様、前途洋々とは行きませんが、それでも慈しみ深い父なる神様が、ひと時も離れることなく共にいてくださることに信頼と希望を置きながら、ひとつ踏み出してみることにいたします。今年もよろしくお祈りします。

新年の挨拶

鍋内 秀喜



新年明けましておめでとうございます。

2020年は、この地上

に住むわたしたちすべてにとつて忘れ難い年となりました。新型コロナウイルス感染症の世界的拡大によって、多くの尊い命が失われ、私たちの生活は大きく制約され、教会の礼拝やミサができないなど大変な年でした。

2021年は安心して生活できる状況に転じていることを願うばかりです。

私ごとですが、今年で45歳。なんだかずっしり重みがある歳になりました：

45歳の抱負ではないですが『人生の折り返しにきているから思うがままに生きていければ』本望です。

もちろん神様に生かされていることを忘れずいつも感謝の気持ちを持ちながら家族と幸せに過ごせればと思います。

丑年に思う



夫婦共に年男・年女

木口富士枝



あけましておめでとうございます。

いつの間にか、浦頭にお世話になって25年、いつの間にか60歳になり

ます。25年前は子供達と賑やかに過ごしていたのが、今は夫婦二人と犬一匹の静かな生活になりました。そして、子供達の仲間が、結婚し親となりその伴侶や子供を連れて遊びに来てくれます。しみじみと、時の流れを感じています。

来年度で定年退職となります。時間に追われながら、その時々役割を懸命に果たしてきました。その役割のなかで、最も手を抜いていたのが、主婦業です。人生100年時代、あと40年で片手間主婦から本業主婦になりたいと思っています。

最後に、夫婦共に年男・年女です。今以上に健康に留意して、元気に浦頭の一員として過ごしていきたいと思っておりますので今後よろしく願います。

六度目の年男

竹山 要司

牛年生まれの私も七十二歳となり、年齢的にも肉体的にも、大分くたびれてる今日この頃。

その理由は、恥ずかしながら令和元年六月三十日、神父様のお祝いで気持ちよく飲んでいたのだが、帰る時階段を踏み外し十五段の階段を下まで落ち、救急車で運ばれる始末でした。

教会の関係者に大変迷惑をかけ、丁度50周年の記念号も作っていたので、編集長をはじめスタッフの方々に申し訳なかったです。入院している時に様々な夢を見せられました。屋根裏に寝ていたり、床下に寝ていたり、或る時は、天国の門の所に行つて、天の声が聞こえました。

そしたら、「まだ早い。返りなさい」と言われました。頑張ります。

「読者の皆様へ」

コロナ禍は、島のひかりにも影響を与えています。

浦頭小教区は少しずつ信徒数が減っています。それにつれ、島のひかりの小教区内の購読者も減少傾向にあります。そこにコロナ禍が直撃し、御厚志が極端に減ってしまいました。専門家等からの情報によれば、もう少しコロナ禍は続きそうです。

そういうこともあって、小教区の読者の皆様に島のひかりの毎月の購読料の値上げをお願いしたところです。

コロナ禍にあって、経済状況も厳しい中、大変恐縮ですが、いか程でも、御厚志いただければ幸いです。

これからも、読者の皆様にしっかりと小教区の事をお伝えし、続けていきたいと考えております。

侍者旅行、

改めドライブ

木口 誠也

浦頭教区小学生の楽しみの一つ、侍者旅行が先日行われました。例年福江島から出て、他の教区の教会や史跡を巡り信仰を深め見聞を広める為に行われる旅行なのですが、今年はコロナ禍にあり感染の危険がある為、島内にある教会を巡礼する事になりました。

まず最初に向かったのは井持浦教会、道中車内は子供達の楽しそうな会話で和気あいあいとしていました。しばらくドライブを楽しんだ後、井持浦教会に到着、ルルドの前に皆並び元気な声でお祈りを捧げます。次の目的地は三井楽教会でしたが、せっかく来たのでとの神父様の計らいで、教会下の公園で少し遊んで行く事に。子供達の元気に走り回る姿と大きな笑い声が響き渡り、気が付けば神父様も

子供達の輪の中に入り一緒に遊ばれ楽しい時間を過ごされた様です。

次の目的地は大きな壁画が目を引く三井楽教会、堂内の造りも島内の教会と違いモダンな造りの綺麗な教会でした。

三井楽教会でお祈りを捧げた後、遣唐使館で昼食。バイキングという事で楽しみにしていた子供達、食前の祈りの後、皿を片手に好物を何度もおかわりする姿は微笑ましいものでした。

次の目的地は、丘の上の白い建屋が美しい水ノ浦教会、主任司祭の鳥瀬神父様が対応して下さい、水ノ浦教会から次の楠原教会、キリシタン牢屋跡までお付き合いです。歴史と成り立ちを丁寧に教えて下さいました。最後に福江教会でお祈りを捧げ今回の侍者旅行は終了、短い時間ではありましたが、楽しく、子供達も勉強になり良い巡礼が出来たのではないかと思います。

新成人
おめでとう

十二月二十三日、コロナ警戒警報が発令され、一月四日に予定されていた五島市の成人式は中止となった。浦頭教会では例年通り一月一日のミサ後、新成人の祝福が行われた。今年は鍋内颯太さん、大浦緋莉さんの二名。しかし県外移動自粛の影響か、大浦緋莉さんのみの出席となった。工藤神父様による祝福が行われ、記念の品が手渡された。成人式ができないこの子らに沢山のお恵みがありますようにと願う。



挨拶する大浦緋莉さん

雪やふり



一月八日、九日、三年ぶりの大雪が五島市全体に降りそそいだ。地元業者の除雪車が朝早くから大活躍。

しーんと時にサアと天井から舞落ちる雪の結晶達は、白く輝きながらきれいに舞い踊る。真っ白な銀世界に子供達は嬉々として、雪遊びに興じている。

子供達の作った雪ダルマは、寒さに力を得て、しっかりと自分の姿をアピールしていた。

ハッピー ニューフェース

赤尾 管子



新年のお慶
びを申し上げ
ます。コロナ

禍の不安と緊張の連日の中・多くの命が守られ終息に向かう事が出来ますように皆様と共に祈りしたいと思います。

早速ですが、この度僭越(せんごう)ではございますが、会のお誘いを受けさせて頂く事になりました。初回の集まりの際、笑顔で迎えて頂き「居てくれたら良いから」を信じ、優しい先輩方に甘えさせて頂けたらと思っております。

私はこの田舎に住み票は在るものの、腰を据えて居た事が無く難しい事は何も解りませんが、貴重な小教区の便りと認識致しております。荷は重く受け止めておりますが、お誘い頂けた言葉も皆様も人情豊かな方々です

の様なお心を分けて頂けたらと思っております。私自身、長年送付頂き感謝の想いもあります。平穏な日常が過せますよう私も頑張ります。

これから寒さも厳しくなり生活も様々な規制があり何かと大変ですが、島のひかりが皆様の心の光となりますように！何卒宜しくお願い致します。

今年のクリスマス 抽選会は？

浦頭小教区信徒が楽しみにしていたクリスマス抽選会はいにく中止となりましたが、役員会で準備した大きなプレゼントを皆、持ち帰りました。

また、神父様が小中学生を対象に「アンケート」形式で好きなケーキは何味？と前もって確認していました。当日二十四日、テーブルに置かれた大きな実物を前に子供達は驚きや嬉しさの表情を出していました。



優しい灯り

初冬に輝く

十一月二十九日、今年も多くの信徒、奥浦地区住民の協力のもと、浦頭・堂崎教会に例年通りイルミネーション飾り付けを行う事ができました。

夜には多くの市民の方々が見に来られており、市内ではある程度知られたイルミネーション

シヨンになつていくかと思われ。仕事帰りに電飾をまとった教会下を通ると、優しい灯りに心が癒されています。



雪の中の撤去作業

保育園お遊戯会



十二月十九日、平和のばら保育園お遊戯会が開催されました。両親のみの参加として例年と比べるとかなり会場内にスペースがありました。必要な対策。

0、一歳児の出し物はステージ幕が開くと同時に園児と親の間にらめっこ。緊張したのか、全く動かさず。少しずつ動く姿に会場からは笑い声。

年長児は体全体で大きく表現する姿に子供の成長を感じました。

堅信式に向けて

一月十七日の下五島合同堅信式は中止となりましたが、今年堅信の恵みを受ける中学生六名に思いを書いて頂きました。



木口 空斗

僕は、堅信を受けて、教会を支えている大人の人たちのようになりたいです。クリスマスに向けて、飾りつけをしたりして、教会のために頑張っているからです。他にも、教会そうじなどで、僕たちが気持ちよくお祈りしたりできるようにしてください。さって、お世話になっているので、今度は僕がそんな教会にで

きるようにしたいと思います。

そのために、堅信式では、教会のために頑張れる人になるぞというのを思いながら、受けようと思います。

堅信後は、たくさん教会に行こうと思います。中学生になりました。いやだと思える時が多くなりました。でも、長崎からいらっしやった神父様の話を聞いて、尊い信仰について、よく分かりましたし、このテストのために教会の勉強をすることで、ミサにたくさん参加して、たくさん祈りをしたいと思いました。これからは、高校生になってミサに行く回数が少なくなるかもしれないけど、時間を見つけて一回一回のミサをもっと大切に参加します。

濱崎 奏多

僕は今、教会で信仰を受けている人たちの仲間入りができるように堅信を受けたいと思います。小学生の時は、なんで教会のことを習うんだろうと疑問に思っていたけど、堅信を受けて今の大人たちになるためにしっかりキリストのことについて学び、理解を深めることが大切だと思いました。

そして、堅信を受けた後は、教会のことについて子どもたちに教えられるようになり、自分も日々の生活をふり返り、罪を犯さない人になりたいです。



小田 凜花

私は、「堅信を受ける」とはどういうことなのか考えました。これまで私は、小学一年生から中学二年生までの八年間、教会のことや、イエス様のことなど

たくさん学んできました。最初（小学一年生の頃）は、けいこは何のためにあるのか分からず、ただ、何も考えずに取り組んでいました。けれど今は、少しでも「イエス様の役に立ちたい」、「イエス様が喜ぶことをしたい」と思うようになり、そのために堅信を受けて、さらに一歩、近づきたいと思います。

今は、学校のことや、日曜以外、ミサに授かることはできていませんが、堅信を受けて、神様やイエス様をもっと身近に感じ、教会だけでなく、家でも全ての人のことを思って、祈りや感謝の気持ちを伝えていきたいと考えています。また、聖書を通して、私には何が足りないのか、私に伝えたいことは何かを考え、今よりももっと、たくさん人のことを思いやることができるように、「堅信」をけじめとして、これらのことを考えて、キリスト信者の一人としてイエス様に恥じない生活を送っていききたいです。

白濱 結羽

二年生になってから、テニスの練習や県大会・選抜で忙しくなり、けいこや教会に行けない週があつて、神父様や神様にとっても迷惑をかけました。でも私は、行けない分、家で祈ることを心がけました。なので、これからは信仰をし続け、今回の堅信で「知恵と理解、判断と勇氣、神を知り、神を愛し、敬う心」の七つのたまものを授けてもらい、よりいっそう教会の使命を果たしたいです。

堅信後は、自ら神様のことを知ること、心がけ、愛し続ける気持ちを持ち続けたいです。



鍋内 楓蓮

堅信を受けることで、今よりも更に、主やイエス様について

知ることができ、近づいていけると思います。堅信を受けて、主やイエス様を知ること、自分を変えることができ、他人を無償に愛せる人間、つまり、イエス様が望むような人間に近づくことができると思います。

今まで、教会のことやイエス様のことを学んできましたが、正直全部が全部覚えていたわけではありません。でも、教会の中でいちばん大切にしないといけない日、それとイエス様の教えなどはしっかりと分かっていました。

中学生になってから、忙しくなり火曜日のミサやロザリオには来れていませんが、日曜日は、バレーが朝からあつても、一番ミサなどに来て、必ずミサに与るようにしています。これを堅信後も続け、堅信で主からお恵みを頂くだけでなく、日頃のミサで、私からも主に愛を捧げられるように心からお祈りしていきます。

鍋内 理子

私は、今年「堅信」だという実感が今までなかったのですが、テストが近づいてくるたびに、たまに地域の人や家族から言われるたびに、だんだん実感がわいてきました。そして、私が堅信を受けるということにそんなに期待みたいなのがかかっていることもなんとなく分かりました。堅信を受けることで、それに応えたいという思いができました。なので、今年は去年より多少は多く勉強して、多少はい点数を取って、合格してほしいと思います。



もし、私か堅信を受けたら、もう少し積極的にミサに行ったりと、消極的だった部分を変えていけるように努力したいと思います。

秘跡

◎永遠の安らぎを

- ・ドメカス 山口美恵 宮原
- 十一月五日死去 90歳
- 十一月七日葬儀 浦頭教会
- ・ヨゼフ 鍋内末己 浦頭
- 十二月九日死去 90歳
- 十二月十一日葬儀 浦頭教会
- ・ヨハネ 山口久市 宮原
- 一月二日死去 100歳
- ・テクラ 福里吉野 浦頭
- 一月十六日死去 87歳
- 一月二十日葬儀

◎堅信 一月十七日

- ・ヨナ 木口
 - ・パウロ三木 濱崎
 - ・ベルナデッタ 小田
 - ・ルチア 白濱
 - ・ローザ 鍋内
 - ・アグネス 鍋内
- おめでとうございます。

“ありがとう”

多額の御寄付ありがとうございました。

北名古屋市 小幡 忠子様

浦頭小教区の 歴史及びデータ から考える今。

II

移住の第一陣が六方の浜に上陸後、移住は度々行われ、奥浦村では、浦頭、大泊、堂崎、浜泊、蟻峨瀬、宮原、半泊、間伏等が居着きましたが、そのほとんどが潜伏キリシタンで生児殺しの強制と弾圧を逃れ、救われた様な気持ちで移住したといわれています。ただ、生活自体は前号で述べた様に大変きつかったはずで。

五島のカトリックが本当の意味で復活した契機は一八六五年（慶応元年）にさかのぼります。その年に大浦天主堂が建てられ、同年三月十七日、浦上の杉本ユリ等が大浦天主堂にいるプチジャン神父の元を訪れ、自分達がカトリックである事を伝えました。二百五十年間潜伏していたカトリックが復活するという、

宗教史上、例のない出来事が起こります。

又、五島桐ノ浦のガスバル与作も、杉本ユリ等と同様にプチジャン神父の元を訪れ、五島に多くのキリシタンがいる事を告げます。与作はその後、五島に帰り、この事を知らせました。それにより、五島各地の代表者は海を渡り、プチジャン神父の元にかけて、自分達がキリシタンの子孫である事や、宣教師の来島を待ちわびている事等を伝えていきます。

そこに起こったのが隣りの島・久賀島や長崎浦上に代表される様な、一八六七年、六八年の最後の迫害でした。

久賀島の牢屋の窄では、わずか六坪の中に二百名という男女が押し込められ、朝夕一切れの芋だけの生活で、入牢は八ヶ月、九ヶ月に及びます。入牢中、亡くなった者三十九名、出牢後すぐ亡くなった者三名、計四十二名が殉教します。信徒が受けた拷問もさまざま、火責めは、

両手に火を起こした炭をのせられ、火吹き竹で吹かれる。算木責めは、三角形の固い木の上に乗せられ、五十kgの平たい石を二枚重ねられる。水責めは二人に囲まれ、間断なく水をそそぎこまれ、腹一杯になると戸板に押しつけられて吐かせられる。

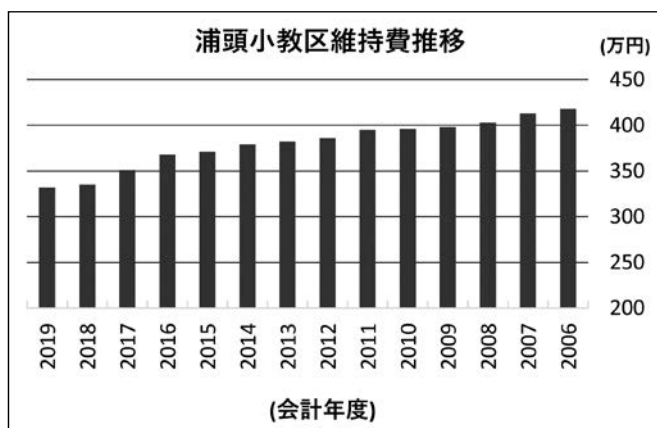
同様な拷問は奥浦村でも行われました。明治元年の十二月十六日、信徒五十九名が浦頭の中尾喜助宅に囚われ、役人足輕に監視されます。正月近くになって奥浦の永林寺に引き出され、青竹や生木の棒で滅多打ちされ、信者の「捨てません。」と答える悲痛な叫びは、青竹や生木の音と合わせて、遠く堂崎辺りまで聞こえたといわれます。



五島の代表的殉教地
“牢屋の窄”

浦頭小教区受入 維持費の推移

今号では、収入面の方から小教区の現状をとらえてみました。前号の信徒数の推移と見比べながら今、現在の状況を考え合わせてみるには、小教区の姿が見えてくるのではと感じます。



ふる里だより

奥浦をよるぎで、鬼岳に

登り+フットサル 楽しんだよ!!

十一月十五日、コロナ禍の間

隙をぬって、奥浦さるくがおこなわれた。当日は、全員に対して検温を実施。「あれっ。体温がないぞ?」。マスク越しの笑いから始まったさるくは、慈恵院跡地での、院長先生の話しから始まった。戸岐地区での鉱山王の巨大な墓の説明を経て、宮原教会での堂崎教会にあるドロ木版画と伝道婦・中島ヤナさんの物語り等、興味深い話しなどを連ねながら、子供達とのゆかいな歩きを楽しんだ。

奥浦さるきから、二週間程して、今度は、子供達は山に向かう。

スタッフ、保護者を含めて二十名程になった登山隊は、鬼岳の頂上から、コンカナの駐車場

まで元気いっぱいに登り終えた。又、十二月二十六日には、大学で日本一にもなった元フットサル選手を指導者に迎え、六人制のサッカーとも言える「フットサル」に超熱中、行事が終わっても、まだまだやり足りない様子でした。



“奥浦さるく・戸岐橋附近”

“フットサル・奥小体育館”



大泊公民館前に植樹

大泊地区公民館前に、歴代会長が植えた、桜の木に加え、今回奥浦夢のまちづくり協議会様より、桜の木五本、オリブの木三本を、寄贈頂く事が出来ました。十一月一日に大泊住民および、まちづくり協議会の皆様に協力を頂き、無事植樹する事が出来ました。

数年後、協力頂いたみな様と花見が出来ればと思っています。



編集後記

昨年、世界中がコロナと戦い世の中の人の心が狂ってしまった。今年こそ正常になることを願う。編集部の皆さん頑張ってください。

竹山 要司

二〇二〇年、パンデミックに翻弄された一年だった。今年はその克服し、それから学び、希望の年となって欲しいと強く感じている、昨今です。

木口 重憲

今年はずっとがうまいきますように。

竹山 巧

無理をしないように頑張ります。

小田 洋市

世間も天気も寒波状態。心だけは、明るく前向きに。

赤尾 管子

今年もよろしくお願ひします。



入口 信
江口 初子
木口 誠也